

製品名: PKD1 (リン酸化Ser205) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05271**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	110kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKD1
別名	PRKD1; PKD; PKD1; PRKCM; Serine/threonine-protein kinase D1; Protein kinase C mu type; Protein kinase D; nPKC-D1; nPKC-mu
遺伝子 ID	5587.0
SwissProt ID	Q15139
免疫原	抗血清は、Ser205 のリン酸化部位周辺のヒト PKD1/PKC mu 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

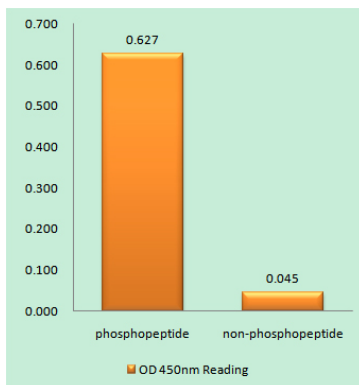
背景

PRKD1 は、膜受容体シグナル伝達、ゴルジ体での輸送、ミトコンドリアでの酸化ストレスからの保護、遺伝子転写、細胞の形状、運動性、接着の調節など、さまざまな細胞機能を制御するセリン/スレオニンキナーゼです (Eiseler らによる要約、2009 年[PubMed 19329994])。[OMIM 提供、2010 年 11 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素制御: ジアシルグリセロールおよびホルボールエステルによって活性化されます。、機能: 酸化ストレスへの抵抗性に関するカルシウム非依存性、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的キナーゼ。、PTM: 活性化 PKD における Ser-738 および/または Ser-742 のリン酸化は、トランスリン酸化によって媒介されます (類似性)。酸化ストレスにตอบสนองして Src/Abl 経路によって媒介される Tyr-463 のリン酸化は、キナーゼを活性化する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。PKD サブファミリー。、類似性: 1 つの PH ドメインを含む。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 2 つのホルボールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを含む。、サブユニット: N 末端を介して ADAP1/CENTA1 と相互作用する。Src と相互作用する。、

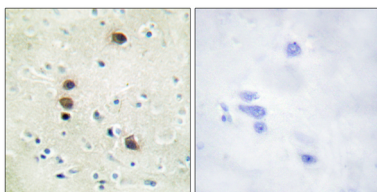
研究分野

微小管制御; アクチンダイナミクスの制御; 幹細胞経路; インスリン受容体; B 細胞受容体; AMPK

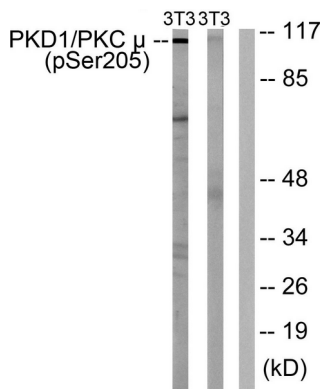
画像データ



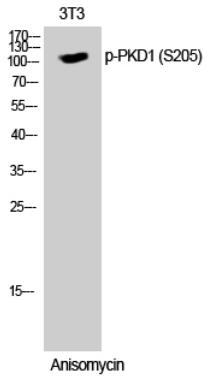
PKD1/PKC mu (リン酸化 Ser205) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PKD1/PKC mu (リン酸化 Ser205) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



アニソマイシン 25ug/ml、30ug で処理した NIH/3T3 細胞のライセートを、PKD1/PKC mu (リン酸化 Ser205) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 PKD1 (S205) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析